

資 料

地域包括ケアシステムにおいて 看護師に求められる能力に関する文献検討

海野潔美¹⁾, 田村麻里子¹⁾, 村井文江¹⁾

A Review of Nurse Competency Required
by The Community-based Integrated Care System.

Umino Kiyomi, Tamura Mariko, Murai Fumie

抄 録

本研究の目的は、わが国の地域包括ケアシステムにおいて求められる看護師の能力を文献より明らかにする事である。文献は医学中央雑誌 Web 版を使用し「地域包括ケア/システム」「看護教育」をキーワードとし、目的に合致した 24 文献より分析を行った。結果、システムにおいて看護師に求められる能力として【生活者としてとらえる】【対象と家族の思いに寄り添う】【対象を尊重した意思決定を支える】【対象の生活の場で必要な看護をする】【多職種と協働する】【地域を看護職として包括的にとらえる】が挙げられた。コアコンピテンシーとの比較から、これらの能力を看護基礎教育において扱う事は適切であると確認された。また、これらは具体的で高度なものもあり看護基礎教育における達成度と教育方法が課題として挙げられた。時代と共にシステムも変化し、併せて看護師に求められる能力も変化する事が推測される為、定期的に検討し看護基礎教育に反映していく必要があると考える。

キーワード：地域包括ケアシステム, 能力, 看護師, 看護基礎教育
community-based integrated care system, competency, nurse,
basic nursing education

I. はじめに

我が国では、急速に少子高齢化が進んでいる。その中で、医療・介護分野ではこれまでの「病院完結型」から、地域全体で治し、支える「地域完結型」への転換のため、受け皿となる地域医療・介護の基盤を充実させるとともに、本人の意向と生活実態に合わせて切れ目なく継続的に生活支援サービスが提

供される地域包括ケアシステム構築を目指している（厚生労働省, 2016）。システムの中で、看護師は療養する高齢者だけでなく、子どもを産み育てる人々、子どもたち、障害のある人などを含むすべての人々の生活を支える役割を担うことになる（日本看護協会, 2015）。

このような社会の流れから、看護基礎教育においても、地域の保健・医療を担う広い視点を持ち、

¹⁾常磐大学看護学部

様々な場面で状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力の修得が求められている（文部科学省，2017）。看護基礎教育検討会においても「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」（厚生労働省，2019）に地域包括ケアシステムについての実践能力と卒業時到達目標が追加されている。

本学部においても，地域社会に貢献し，質の高い看護サービスの提供と医療の向上に資することができる人材育成を教育理念とし，地域包括ケアシステムの中で活躍できる人材育成を目指している。これは4年間の実習も含めた教育で積み上げられるものであり，看護基礎教育の中で効果的な教育方法の検討を進めている。

地域包括ケアシステムの看護基礎教育の先行研究では，地域包括ケアを担う訪問看護師，多職種の実践活動から学ぶプログラムやその評価，教授方法の検討などが報告されている（橋本ら，2019）。地域包括ケアシステムの実践能力に関するものは，看護師へ期待する能力について看護学士課程におけるコアコンピテンシーを調査項目としたアンケート調査報告（清野ら，2014）や在宅ケアに関わる看護師や多職種へのインタビュー調査報告（吉田ら，2014）があり，地域包括ケアに必要とされる能力があらゆる視点でみる力，関わりづくりなど抽象度の高いものであった。

本研究では，地域包括ケアを担う看護師に求められる能力について文献より具体的にし，看護基礎教育における教育方法検討のための基礎資料とすることを目的とした。

なお，本研究は「地域包括ケアシステムを活用した看護教育の充実」に関する学内課題研究の一部である。

Ⅱ. 研究目的

地域包括ケアシステムを担う看護師となることを前提として，看護基礎教育で育成する能力を検討するために，わが国の地域包括ケアシステムで求められる看護師の能力を文献より明らかにすることである。

Ⅲ. 研究方法

1. 文献採択基準

地域包括ケアシステムにおいて看護師が実践していること，および地域包括ケアシステムの構築・運用のために看護師が実践する必要があることを，地域包括ケアシステムを担う看護師に求められる能力として，これらが具体的に記述されていることを採択基準とした。論文の種類は原著論文，研究報告，総説・解説とした。なお，地域包括ケアシステムに関する研究の動向を把握するために全年検索とした。

2. 文献採択の流れ

文献採択は，以下の手順で行った（図1）。

- 1) 検索の対象とする文献は，わが国の地域包括ケアシステムで求められている能力を明らかにすることから，国内文献とした。
- 2) 検索には，医学中央雑誌web版（以下，医中誌）を用いた。「地域包括ケア/地域包括ケアシステム（TH）」and「看護教育（TH）」にて検索し，235件が抽出された。「地域包括ケア/地域包括ケアシステム（TH）」と「能力」や「看護師の能力」の検索では文献が抽出されなかった。また，地域包括ケアにおいて看護師に求められている能力を明らかにすることが目的であるため，看護基礎教育に関する文献だけではなく，現任教育や実践に関する文献も含んだ。
- 3) 抽出した235件について，タイトルおよび抄録から，明らかに採択基準に合致していない46件を除外した。
- 4) 残った189件について本文を読み採択基準に合致した文献15件（原著論文5件，総説・解説・特集10件）を分析対象として採択した。分析対象から除外された文献には，活動内容，研修会のプログラム，教育内容の報告が多く含まれた。
- 5) 本文を読んだ189件の引用文献，および関連雑誌のタイトルから分析対象となる可能性のある17件を抽出し，本文を読み，採択基準に合致する3件を採択した。
- 6) 採択された15件には「母子」「精神」「災害」「国際」「救急」の分野の不足が見られたため，「地域

地域包括ケアシステムにおいて求められる看護師の能力

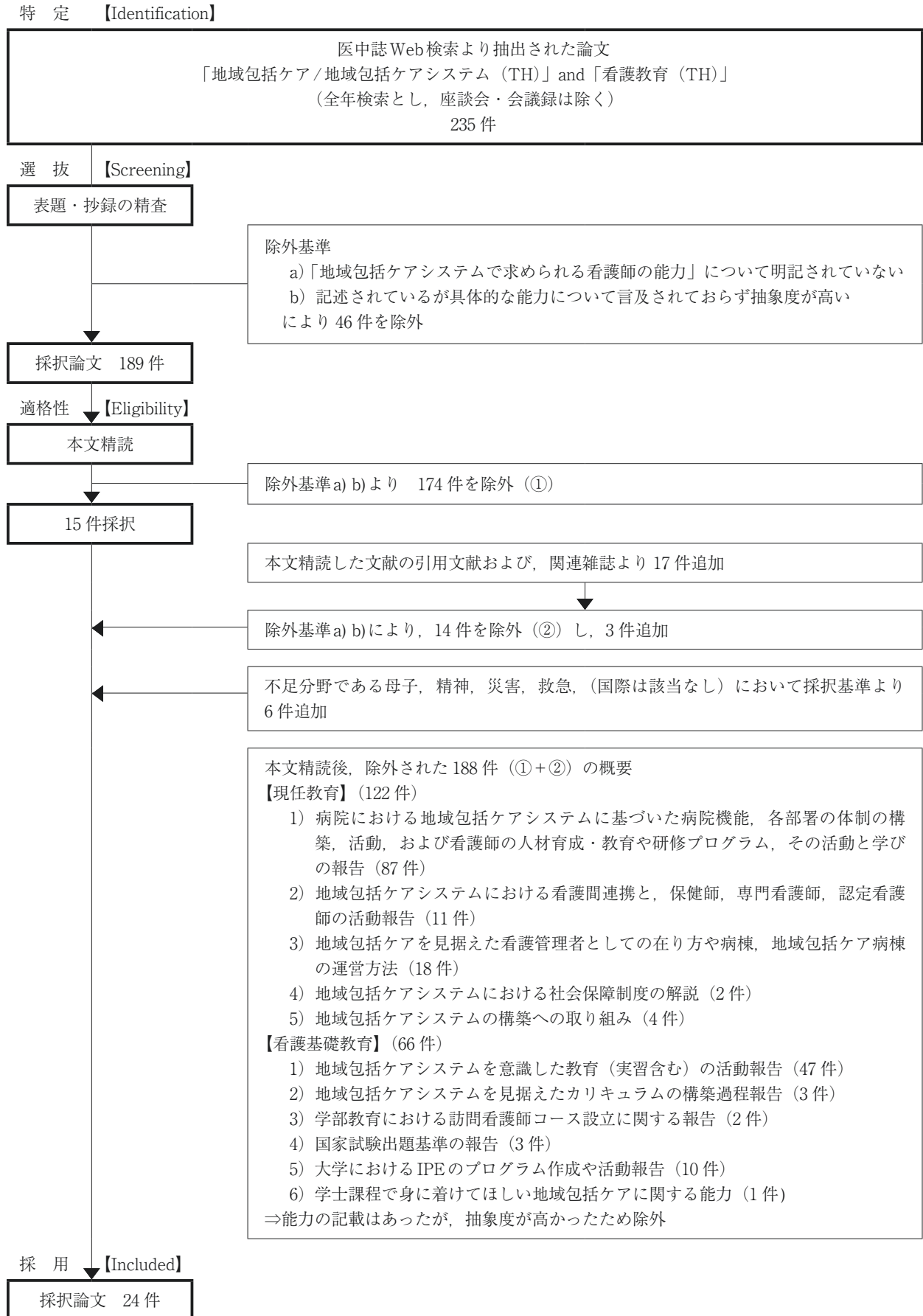


図 1 文献採択のためのフローチャート

包括ケア/地域包括ケアシステム (TH)」と「母子」「精神」「災害」「救急」「国際」「国際看護」「外国人」「外国人医療」「外国人患者」「外国人母子」(すべてAL)それぞれとand検索を行い、採択基準に合致する6件を追加した。結果、24件が分析対象文献となった。

24文献中、1文献は2004年であったが、他は2014年以降であった。地域包括ケアシステム構築の必要性は2003年に高齢者介護研究会によって初めて打ち出され、その後、2011年の介護保険法改正によって構築が推進されてきている(川越, 2008)。2004年の文献については、訪問看護師が地域において多職種と連携し、どのようにケアを提供することが必要かという、地域包括ケアシステムにおける看護師に必要な力を記述しているということとで採択とした。

3. 分析方法

24件より、地域包括ケアシステムにおける看護師に求められる能力に関する記載を抽出しデータとし、意味単位ごとにコード化を行った。コード化においては、データの元の意味を損なわないように留意した。コードの類似と相違を比較検討しカテゴリ化を行い、サブカテゴリ、カテゴリを作成した。カテゴリ化の過程では、データに戻りながら、適切性を確認した。カテゴリ化においては、3人の研究者が作成したカテゴリ等について課題研究メンバーからも意見をもらい修正し、合意に至るまで検討し、妥当性を確保した。

IV. 結果

1. 分析対象文献の概要

原著論文3件、研究報告4件、総説・解説17件であった。教育の場では、看護基礎教育に関するものが6件、現任教育に関するものが18件であった(表1)。分析対象となった24文献は、地域包括ケアシステムに必要な能力を地域包括ケアシステムの解説とともに看護職に望まれる能力について述べられたもの(文献1, 9, 10, 12)、多職種連携や地域ネットワーク活動などの実践から地域包括ケアを行うための能力について記述したもの(文献4, 5,

6, 7, 8, 11, 13, 15, 16, 17, 18, 19, 20)、研修・実習後のレポートを質的に分析して能力について述べたもの(文献2, 3)、地域ケアを担う看護師が期待する看護の能力に関する調査から具体的にまとめたもの(文献14, 21)、看護基礎教育の実践から述べたもの(文献22, 23, 24)であった。

2. 地域包括ケアシステムで求められる看護師の能力

対象文献24件より地域包括ケアシステムで求められる看護師の能力として、183コード、43サブカテゴリ、6カテゴリが生成された。カテゴリは、【生活者としてとらえる】【対象と家族の思いに寄り添う】【対象を尊重した意思決定を支える】【対象の生活する場で必要な看護をする】【多職種と協働する】【地域を看護職として包括的にとらえる】から構成された(表2)。

本研究においては、カテゴリは【 】、サブカテゴリは〈 〉で記した。以下カテゴリごとの結果について説明する。

1) 【生活者としてとらえる】

このカテゴリは〈対象の生活に視点を持ち生活者としてとらえる〉〈対象の生き方をとらえる〉の2サブカテゴリから構成された。

看護師は、対象を「患者」ではなくその人の生活そのものに焦点を当て〈対象の生活に視点を持ち生活者としてとらえる〉ことが求められていた。また、対象の生活に対する姿勢や態度など、〈対象の生き方をとらえる〉視点で対象を理解することが必要とされていた。

2) 【対象と家族の思いに寄り添う】

このカテゴリは、〈「その人らしさ」「その家らしさ」に気づく〉〈対象の思いを感じ取る〉〈対象の思いをくみ取る〉〈対象の思いを受け止める〉〈対象と家族の声に耳を傾け、共に考える〉〈対象と家族の思いに寄り添うコミュニケーションをする〉〈対象と家族の心理的サポートをする〉〈対象と家族の思いを多職種につなげる〉の8サブカテゴリで構成された。

看護師は、〈「その人らしさ」「その家らしさ」に気づく〉ことから、対象の固有の生活空間を理解し、そのうえで〈対象の思いを感じ取る〉〈対象の

表 1 分析対象文献

番号	文献名
1]	丸田恵子 (2018) : 地域包括ケアシステムの構築につながる認知症ケアの展開, コミュニティケア, 20(7), 43-48.
2]	福井トシ子 (2018) : 地域包括ケアシステムに対応するための看護基礎教育, 日本病院会雑誌, 65(3), 262-283.
3]	高村千香子, 下島美千代, 芳村直美 (2018) : 中堅看護師を対象とした退院調整看護研修後の理解と今後の課題, 日本看護学会論文集看護教育, 48, 130-133.
4]	志田京子, 長畑多代, 田島長子他 (2018) : 大阪府内の中小規模病院における退院調整の現状と看護師ニーズ, 大阪府立大学看護雑誌, 24(1), 67-76.
5]	吉井靖子 (2017) : 災害発生時・発生後の「訪問看護」による支援新潟県中越地震における「要配慮者」への取り組み, コミュニティケア, 19(13), 30-36.
6]	新谷明子 (2017) : 気がかりな妊婦・親子を支援するための看護職間の連携システム, 看護, 69(12), 40-43.
7]	竹ノ内沙耶香 (2017) : 在宅・病院・介護施設をつなぐACPの在り方, がん看護, 22(7), 683-686.
8]	下村晃世 (2017) : 南勢地域緩和ケアネットワークによる看看連携と看護の実際, 看護, 69(8), 35-42.
9]	坂本すが, 島田陽子, 相澤孝夫他 (2017) : 病院医療の在り方・今後の展望～治療と生活を支えるなど～, 日本病院会雑誌, 64(2), 12-17.
10]	小森和子 (2017) : 日本赤十字社としての看護の役割と専門性地域医療の変革期や被災地の暮らしを支え, その先につなげる, 看護管理, 27(1), 31-34.
11]	中村順子 (2017) : これからの訪問看護と在宅ケアの未来 看護教育から考える, 日本在宅学会誌, 20(2), 12-17.
12]	吉村浩美 (2017) : 高齢多死社会において看護職に求められる役割と専門性, 看護管理, 27(1), 52-56.
13]	吉永幸弘, 永岡亨祐, 井本貴博 (2017) : 精神障害者への地域包括ケアシステムの必要性 地域だからこそ見られた患者の笑顔を大切に, 日本精神科看護学術集会誌, 60(2), 220-221.
14]	神田清子, 堀越政孝, 佐藤由美他 (2016) : 地域包括ケアに根差した在宅ケアマインドを育てる看護教育, 看護展望, 41(10), 25-29.
15]	馬場啓子 (2016) : 地域包括ケアシステムにおける看護実践者育成に向けて, 看護展望, 41(10), 19-24.
16]	森實詩乃, 田中博子 (2016) : 看護基礎教育における地域包括ケアを担う次世代看護師養成の現状 在宅看護学実習「学びのレポート」の分析からの考察, 帝京科学大学紀要, 12, 171-174.
17]	山田佐登美 (2016) : その人らしい生活実現のために地域包括ケアシステムに期待される看護の役割と能力, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 20(1), 111-115.
18]	柴田里花 (2016) : 救急看護の対象と視点, Emergency Care, 129(4), 10-14.
19]	高原昭 (2015) : 地域包括ケアシステムの中で認知症患者を看るということ, 看護, 67(8), 69-73.
20]	土井晴代 (2015) : がん患者を支える「地域包括ケア連携」, 看護, 67(8), 57-61.
21]	柏木聖代, 川村佐和子, 原口道子 (2015) : 看護基礎教育における在宅看護実習の現状と課題訪問看護ステーションへのインタビュー調査から, 日本在宅看護学会誌, 3(2), 44-45.
22]	吾妻知美 (2015) : 病を持つ人を支えるインタープロフェSSIONALワークー看護教育の課題ー, 京都府立医科大学雑誌, 124(6), 423-429.
23]	樋口エキ子, 大園康文 (2014) : 病院と地域をつなぐ看護師の育成を目指して, 看護展望, 39(5), 20-27.
24]	平田美和, 大塚真理子, 新井利民他 (2004) : インタープロフェSSIONALワークにおける多職種の役割ー在宅要介護高齢者への介護保険サービスを通してー, 埼玉県立大学紀要, 6, 47-52.

表2 地域包括ケアシステムで求められる看護師の能力

カテゴリー	サブカテゴリー
生活者としてとらえる	対象の生活に視点を持ち生活者としてとらえる 対象の生き方をとらえる
対象と家族の思いに寄り添う	「その人らしさ」「その家らしさ」に気づく 対象の思いを感じ取る 対象の思いをくみ取る 対象の思いを受け止める 対象と家族の声に耳を傾け、共に考える 対象と家族の思いに寄り添うコミュニケーションをする 対象と家族の心理的サポートをする 対象と家族の思いを多職種につなげる
対象を尊重した意思決定を支える	対象の意思表示を支える 対象の意思を代弁する 対象の個性に対応した決定ができるように支援をする 対象の心身を整え意思決定ができるよう支える 意思決定したことが実現できるように支える 対象の望む生き方を尊重し支える
対象の生活の場で必要な看護をする	生活の場における支援の特性を理解する 対象を取り巻く情報を収集・統合する 対象のニーズをとらえる 必要なケアを導くアセスメントができる 対象の症状マネジメントをする 対象の持っている力を活かす 対象の状態の維持・重症化予防の視点を持つ 対象の先のことまで予測する 対象の状況に合わせてタイムリーなケアを提供する 対象の複雑化に対応したケアをする 生活の再構築を支える 対象の生活の場でケアを提供する 対象の緊急時に対応をする 対象が社会資源・社会保障制度を活用できるように支援する
多職種と協働する	多職種と情報を共有する 多職種と協働して対象を理解する 多職種間の専門性を理解する 多職種連携における調整役・まとめ役を担う 多職種と協働してマネジメントする 多職種連携における看護の役割を明確にする 多職種連携における看護師の姿勢を持つ 多職種連携における退院調整・支援をする
地域を看護職として包括的にとらえる	生涯にわたり対象の生活と保健・医療・福祉（介護）をつなぐ 地域における看護職間の連携を図る 地域において災害時の支援システムを作る 地域をみる視点を持つ 地域における看護の役割の拡大・創出する

思いをくみ取る〉〈対象の思いを受け止める〉ように段階的に対象の思いに寄り添うことが示された。同時に対象にとって支援者であり、理解者である家族の存在を大切に、〈対象と家族の思いに寄り添うコミュニケーションをする〉こと、〈対象と家族の声に耳を傾け、共に考える〉姿勢を持ち〈対象と家族の心理的サポートをする〉能力が必要とされていた。さらに多職種で連携し支援していくために〈対象と家族の思いを多職種につなげる〉役割が求められていた。

3) 【対象を尊重した意思決定を支える】

このカテゴリーは、〈対象の意思表示を支える〉〈対象の意思を代弁する〉〈対象の個別性に対応した決定ができるように支援をする〉〈対象の心身を整え意思決定ができるように支える〉〈意思決定したことが実現できるように支える〉〈対象の望む生き方を尊重し支える〉の6サブカテゴリーから構成された。

看護師は、〈対象の意思表示を支える〉ことや必要に応じ〈対象の意思を代弁する〉〈対象の個別性に対応した決定ができるように支援をする〉ことが求められていた。そのために〈対象の心身を整え意思決定ができるように支える〉ことが必要とされていた。対象の意思決定後、〈意思決定したことが実現できるように支える〉ことと〈対象が望む生き方を尊重し支える〉能力が求められていた。

4) 【対象の生活の場で必要な看護をする】

このカテゴリーは、〈生活の場における支援の特性を理解する〉〈対象を取り巻く情報を収集・統合する〉〈対象のニーズをとらえる〉〈必要なケアを導くアセスメントができる〉〈対象の症状マネジメントをする〉〈対象の持っている力を活かす〉〈対象の状態の維持・重症化予防の視点を持つ〉〈対象の先のことまで予測する〉〈対象の状況に合わせてタイムリーなケアを提供する〉〈対象の複雑化に対応したケアをする〉〈生活の再構築を支える〉〈対象の生活の場でケアを提供する〉〈対象の緊急時に対応をする〉〈対象が社会資源・社会保障制度を活用できるように支援する〉の14サブカテゴリーから構成された。

看護師は、〈生活の場における支援の特性を理解する〉〈対象を取り巻く情報を収集・統合する〉〈対

象のニーズをとらえる〉〈対象の症状マネジメントをする〉といった段階を踏み、〈必要なケアを導くアセスメントができる〉〈対象の生活の場でケアを提供する〉能力が求められていた。対象の状態の変化に対しては〈対象の状況に合わせてタイムリーなケアを提供する〉〈対象の緊急時に対応をする〉ことが求められていた。看護を展開する上で〈対象の状態の維持・重症化予防の視点を持つ〉〈対象の先のことまで予測する〉必要があり、その上で〈対象が社会資源・社会保障制度を活用できるように支援する〉〈生活の再構築を支える〉〈対象の複雑化に対応したケアをする〉が求められていた。

5) 【多職種と協働する】

このカテゴリーは、〈多職種と情報を共有する〉〈多職種と協働して対象を理解する〉〈多職種間の専門性を理解する〉〈多職種連携における調整役・まとめ役を担う〉〈多職種と協働してマネジメントする〉〈多職種連携における看護の役割を明確にする〉〈多職種連携における看護師の姿勢〉〈多職種連携における退院調整・支援をする〉の8サブカテゴリーから構成された。

看護師は、多職種連携におけるチームにおいて〈多職種連携における調整役・まとめ役を担う〉ことが求められていた。そのため、〈多職種と情報を共有する〉〈多職種と協働して対象を理解する〉〈多職種と協働してマネジメントする〉ことで、病院内外に問わず〈多職種連携における退院調整・支援をする〉役割が必要とされていた。また、〈多職種連携における看護師の姿勢を持つ〉〈多職種連携における看護の役割を明確にする〉とともに〈多職種間の専門性を理解する〉こと、チームとして活動していくことが求められていた。

6) 【地域を看護職として包括的にとらえる】

このカテゴリーは、〈生涯にわたり対象の生活と保健・医療・福祉（介護）をつなぐ〉〈地域における看護職間の連携を図る〉〈地域において災害時の支援システムを作る〉〈地域を看る視点を持つ〉〈地域における看護の役割の拡大・創出する〉の5サブカテゴリーから構成された。

地域包括ケアシステムに関わる看護職は、〈地域を看る視点を持つ〉ことが求められ、〈生涯にわたり対象の生活と保健・医療・福祉（介護）をつな

ぐ)のために〈地域における看護職間の連携を図る〉こと、平常時から災害を予測し〈地域において災害時の支援システムを作る〉能力が求められていた。さらに〈地域における看護の役割の拡大・創出する〉役割を担い、地域におけるシステム構築に尽力する能力が求められていた。

V. 考 察

本研究の分析対象となった文献は、総説・解説がほとんどであり、1文献を除いて2014年以降のものであった。地域包括ケアシステムは、2011年に概念が示され構築が進められてきている。運用されるようになってからの年月が短いため、実践活動から能力について検討したものや地域包括ケアシステムを構築・活動するために必要と考えられる能力を述べている論文が主となったと考える。

以下、本研究で導き出された地域包括ケアシステムにおいて看護師に求められる能力の全体と各カテゴリーの特徴について考察し、看護基礎教育への示唆を述べる。

1) カテゴリーの全体的な特徴

本研究において抽出された地域包括ケアシステムで求められる看護師の能力に関するカテゴリーは、看護学士課程におけるコアコンピテンシー（以下コアコンピテンシーとする）（日本看護系大学協議会, 2018）に包含されている。【生活者としてとらえる】は、「Ⅰ群 対象となる人を全人的に捉える基本能力」、【対象と家族の思いに寄り添う】と【対象を尊重した意思決定を支える】は「Ⅱ群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力」、【対象の生活の場で必要な看護をする】は「Ⅲ群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」と「Ⅳ群 特定の健康課題に対応する実践能力」、【多職種と協働する】と【地域を看護職として包括的にとらえる】は、「Ⅴ群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力」の内容となっている。これらの能力は、「2）求められる能力の特徴」で後述するように、地域包括ケアシステムの理念や考え方を反映する内容であり、対象の捉え方としての【生活者としてとらえる】とケアの基本的な考え方である【対象と家族の思いに寄り添う】【対象を尊重した意思決定を支える】を基盤

として【対象の生活の場で必要な看護をする】【多職種と協働する】【地域を看護職として包括的にとらえる】という地域包括ケアシステムでの実践につながっている。

一方、「Ⅵ群 専門職として研鑽し続ける基本能力」に含まれるカテゴリー、サブカテゴリーは抽出されていない。「Ⅵ群 専門職として研鑽し続ける基本能力」は、学士力における生涯学習力に相当するものである（日本看護系大学協会, 2018）。本研究では、地域包括ケアシステムで求められる看護師の能力についての具体をデータとしているため、実践に関する能力は抽出されたが、学士力に関するカテゴリーが生成されなかったと考える。

2) 求められる能力の特徴

(1) 【生活者としてとらえる】

カテゴリー全体の特徴で考察したように【生活者としてとらえる】は、他のカテゴリーの基盤である。【生活者としてとらえる】は、〈対象の生き方をとらえる〉が示すように、単に対象の生活を捉えるのではなく、生活への考えや価値観を含む生き方を捉えることである。したがって、生き方として生活への考えや価値観を含め生活者を捉えることで、その人がその人らしく暮らすための支援の実現につながると考える。

(2) 【対象と家族の思いに寄り添う】

このカテゴリーの特徴は、対象だけでなくその家族の思いに「寄り添う」ことであり、対象と家族がどのように現状を理解し考えているのかについて、ありのままの思いを受け止めることである。今後は、家族が多様化し家族介護を期待しない・できない時代が到来することから、個人を単位とした仕組みを検討する必要性が示されている（地域包括ケア研究会, 2019）。このようなことから、対象と家族へ寄り添う支援は、より高度化していくことが推測される。

(3) 【対象を尊重した意思決定を支える】

地域包括ケアシステムにおいて「個人の尊厳」が保持される社会は、「自分の人生を決め、また周囲からも個人として尊重される社会」と定義されている（厚生労働省, 2003）。【対象を尊重した意思決定を支える】ことは、自分の人生を決めることに関連し、「個人の尊厳」を守る能力である。

また、本カテゴリーでは、コアコンピテンシー（日本看護系大学協議会，2018）に明記されていない〈対象の心身を整え意思決定ができるように支える〉が挙げられている。地域包括ケアシステムの考え方においても「本人・家族の選択と心構え」から「本人の選択と本人・家族の心構え」となった（地域包括ケア研究会，2016）ように、個人が意思決定することを最後まで支えるために重要な能力が示されたと考える。

（４）【対象の生活の場で必要な看護をする】

本カテゴリーは、コアコンピテンシー（日本看護系大学協議会，2018）の「Ⅲ群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」と「Ⅳ群 特定の健康課題に対応する実践能力」を含んでおり、生活の場で看護を展開していく能力と対応する幅広い実践能力が具体的に示されている。看護を展開していく能力と実践能力が一体となって、生活の場での看護に必要な能力となっている。

生活の場で必要とされる実践能力としては、対象の状態の維持・重症化予防、症状マネジメントのようにあらゆる健康レベルでの能力が示されるとともに、先のことまで予測する、状況に合わせたタイムリーなケアの提供、生活の再構築、社会資源・社会保障制度の活用支援のように、医療機関、福祉施設、在宅といった多様な生活の場における看護の実践をするための具体的な能力が抽出されている。しかし、これらの生活の場で必要とされる実践能力は、対象の健康レベルおよび生活の場などの多様性ゆえに、幅広いだけでなく、高度な看護実践能力が抽出されていると考える。

（５）【多職種と協働する】

改訂されたコアコンピテンシーでは、地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力が「Ⅴ群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力」に追加された（日本看護系大学協議会，2018）ように、地域包括ケアシステムでは、生活の場という多様なケア環境で多職種がチームとして実践していくことが必要である。また、地域包括ケアシステムにおける多職種の連携については、これまでも進められてきたが、今後は医療と介護の統合にむけたネットワーク構築をめざし、多職種連携によるチームケアが必要とされている（地域包括ケア研究会，

2017）。

今回抽出された能力では、調整役・まとめ役を担う、退院調整・支援をするといった従来から看護師が担ってきた役割が示されるとともに、多職種間の専門性の理解、多職種連携における看護師の役割の明確化や姿勢など、多職種が連携して１つのチームとして活動していくための能力も挙げられている。したがって、これらの能力は、期待されている多職種連携を実現することを可能にするものと考ええる。

（６）【地域を看護職として包括的にとらえる】

本カテゴリーは、看護職は作られた地域包括ケアシステムの中で仕事するだけでなく、地域づくりや街づくりに関わることが求められていることを示している。また、災害時の支援システムも含まれているように、災害発生が増えている現状も反映した能力である。

今後の地域ケアシステムの実現には、コンパクトシティやスマートシティといった構想を進めていく必要性（地域包括ケア研究会，2017）も示唆されており、本能力の重要性は増していくと考える。また、地域ケアシステムを実現する過程では、地域における看護の役割の拡大・創出が発展することになり、それに関わる能力は必須になる。

３）看護基礎教育への示唆

コアコンピテンシー（日本看護系大学協会，2018）は、看護の場が病院施設から地域在宅の場に拡大し、看護への社会の期待が変化してきていることを踏まえ、2017年度に改訂されたが、今回抽出された能力はそれらも網羅する内容である。したがって、本研究で示された地域包括ケアシステムで看護師に求められる能力は、看護基礎教育で養成する内容として妥当と考える。また、その内容は具体的なものであったが、生活の場で求められる看護師の能力のように、高度な実践能力も含まれている。これらの能力を看護基礎教育で育成する上では、臨地の状況を踏まえながら到達目標の設定をするとともに教育方法を検討する必要がある。

社会が急激に変化する中で地域包括ケアシステムも変化していく。そして、地域包括ケアシステムで看護師に求められる能力も変わっていくことが推測される。今回抽出された能力が、社会状況に即しているものかを定期的に検討し、看護基礎教育に反映

していく必要があると考える。

VI. 結 論

地域包括ケアシステムに関する24文献から、地域包括ケアシステムにおいて看護師に求められる能力として、【生活者としてとらえる】【対象と家族の思いに寄り添う】【対象を尊重した意思決定を支える】【対象の生活の場で必要な看護をする】【多職種と協働する】【地域を看護職として包括的にとらえる】が挙げられた。コアコンピテンシーとの比較から、これらの能力を看護基礎教育において扱うことは適切であると確認された。また、これらの能力は、具体的で高度なものもあり、看護基礎教育における達成度と教育方法が課題として挙げられた。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、ご助言、ご指導いただきました課題研究の皆様にご心より感謝申し上げます。

なお、本研究は、2018年度常磐大学課題研究「地域包括ケアシステムを活用した看護教育の充実」の助成を受けて行ったものである。

文 献

地域包括ケア研究会（2016年）：地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業報告書 地域包括ケアシステムと地域マネジメント、https://www.murc.jp/report/rc/policy_research/public_report/koukai_130423/（閲覧日：2019年12月4日）

地域包括ケア研究会（2017）：地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業報告書－2040年に向けた挑戦－、https://www.murc.jp/sp/1509/houkatsu/houkatsu_01/h28_01.pdf（閲覧日：2019年12月4日）

地域包括ケア研究会（2019）：地域包括ケアシステムの進化・推進に向けた制度やサービスについての調査研究報告書 2040年：多元的社会における地域包括ケアシステム「参加」と「協働」で作る

包括的な社会、https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2019/04/koukai_190410_17.pdf（閲覧日：2019年12月4日）

橋本麻由里，古澤幸江，安田みき他（2019）：地域包括ケアを担う看護職者の教育・人材育成に関する文献検討，岐阜県立看護大学紀要，19（1），179-187

厚生労働省（2003）：高齢者介護研究会報告書「2015年の高齢者介護」 高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて、<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/kentou/15kourei/index.html>（閲覧日：2019年12月4日）

厚生労働省（2016）：平成28年度版厚生労働白書，<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/>（閲覧日：2019年12月4日）

厚生労働省（2019）：第9回看護基礎教育検討会 報告書，<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>（閲覧日：2019年12月4日）

川越雅弘（2008）：我が国における地域包括ケアシステムの現状と課題，海外社会保障研究，162，4-15.

文部科学省（2017）：看護学教育モデル・コア・カリキュラム「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfil（閲覧日：2019年12月4日）

日本看護協会（2015）：2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護，<https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/index.html>（閲覧日：2019年12月4日）

日本看護系大学協議会（2018）：看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標，<http://www.janpu.or.jp/file/corecompetency.pdf>（閲覧日：2019年12月4日）

清野純子，加藤基子，高田大輔（2014）：在宅ケアにおける看護系大学生の新卒時の看護実践能力に対する期待 A区の在宅ケアを担当する職種に対する調査，帝京科学大学紀要，10，51-62.

吉田千鶴，加藤基子，城野美幸他（2014）：地域包括ケアにおける看護系大学生が卒業時に身につけ

て欲しい能力に対する期待, 帝京科学大学紀要,
10, 117-123.